

2 課題研究交流会

(1) 研究開発の課題（研究概要）

課題研究に取り組む高校生が、大学の研究者から直接アドバイスを受けられる機会を作る。このような機会を作ることで、高校生の課題研究の質を向上させ、論理的に考える力を高める。

(2) 研究開発の経緯

多くの科学コンテストは、研究成果が評価される場になっており、研究で生じた問題点や疑問について質問ができる場にはなっていない。本交流会は、生徒が自分の研究概要を簡単に説明した上で、研究上の疑問や問題点について相談ができる機会として設定している。今年度もコロナウィルス感染拡大防止の観点で Web 開催とし、動画配信による発表とオンライン発表会を実施した。

(3) 研究開発の内容

ア 研究の内容・方法

課題研究について、発表動画の配信及び口頭発表と研究者によるアドバイス

イ 連携先

名古屋大学理学研究科・多元数理科学研究科・環境学研究科・生命農学研究科

ウ 参加者

高等学校 生徒 110 名、教員 17 名

生徒：岡崎 17 名、明和 19 名、一宮 32 名、向陽 24 名、名城大附 18 名

教員：岡崎 2 名、明和 2 名、向陽 4 名、一宮 5 名、名城大附 2 名、豊田東 1 名、東京都立多摩科学技術 1 名

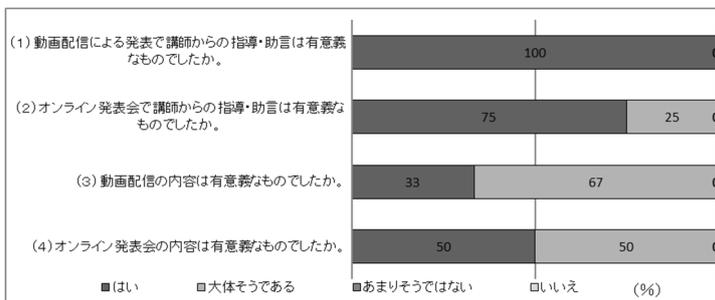
エ 日時場所

動画配信による発表：令和 3 年 7 月 30 日(金)～8 月 20 日(金)

オンライン発表会：令和 3 年 8 月 2 日(月) 8:00～12:30

オ 実施内容

動画配信による発表は、発表動画 URL 一覧をもとに、参加生徒や参加教員が各校の発表動画を視聴した。発表動画の助言・指導は大学の研究者や大学院生から文書または動画で頂いた。オンライン発表会は Zoom のブレイクアウトルーム機能を用いて分科会形式で口頭発表会を実施し、オンタイムでの質疑応答、指導・助言を得ることができた。



オンライン発表会の風景

カ 検証（成果と反省）

参加生徒、教員の感想

- ・まだ多くのデータが揃っておらず、大きな大会に出すには躊躇してしまう内容でしたが、動画の投稿でしたので、参加しやすく、さらに、先生方の御助言が大変励みになりました。ありがとうございました。
- ・コロナ禍で会場での発表が出来なくなり、オンラインなど直接対面することのない発表になったが、これはこれで発表者が比較的落ち着きを持ってできたり、思わぬ質問が来たとしても答えやすかったり、また回答者も大人数に近くで顔を見られているわけではないので、質問しやすかったりとオンラインならではのメリットも数多くあると思う。

アンケートからわかるように、従来の会場での対面での発表形式、動画配信によるオンデマンド形式、Web 会議システムを用いたオンライン発表形式のそれぞれに利点があることが分かった。参加者のニーズに合わせ、参加者同士の意見交換が活発に行える場、講師からの確かな指導・助言が得られる機会となるよう、今後の発表会の形式については検討を行う。